

佐賀大学広報誌 **かちがらす**

特集 佐賀環境フォーラム

市民と学生が共に学び考える

活躍するOB

JICA中国事務所長 古賀 重成さん

夢のシステム開発

“見つめるだけ”でコンピュータ入力できる!

佐大ブランドの酒

「悠々知酔」

ホノルルマラソン

むつごろう館 etc



環境について市民と 佐賀環境

■佐賀大学内河川清掃

佐賀の環境の特徴は市内を縦横に流れる水路です。佐賀市では、春と秋に一斉に河川清掃が行われますが、これと連動して平成18年度は、大学構内を流れる水路の清掃を呼び掛け、教職員や学生と共に清掃しました。自転車やタイヤ等大量のゴミが引き上げられました。終了後、自治会の方々と交流会を持ち、この水路を流れる水が佐賀地域の農業用水として利用されていることを知りました。



水路に捨てられていた自転車やタイヤなどの大型ごみ



構内の水路を清掃する地元自治会の方々と学生・教職員

教員ばかりでなく学外講師（他大学、行政、企業、NPOなど）を招いてのオムニバス形式の講義が行われます。そこでは最新の正確な環境情報が提供されるので大変好評です。また、この内容はビデオ撮影され、編集後アーカイブ化されますので後で視聴可能です。また、体験講座や現地見学会では、講義で学んだことを実際に現場で体験することによって更に理解を深めることができます。後期に実施される「身近な環境—調べよう・深めよう・伝えよう—」では、市民と学生が協同して環境問題を自ら発見し解決するというグループワークショップを行います。最近では、このワークショップ活動が活発です。ここではそのいくつかの成果を紹介します。

■打ち水



平成18年7月14日「打ち水大作戦」の旗を掲げて学内を回る市民の方々と学生たち(左から2番目が宮島教授)

夏の暑い日にお風呂の残り湯など二次水を道ばたや庭に撒き、涼しさを得る打ち水をきっかけに、環境問題に目を向けてもらおうとするものです。打ち水イベントを開催し、市民に昔からある生活の工夫から環境問題を考えることを提案しました。

身近な 知ろう・

佐賀環境フォーラムの活動は、佐賀には行政ばかりでなく共有し、協同して活動することに佐賀で唯一の国立大学法人であるできれば素晴らしいと考えていることをご理解いた

■佐賀市立赤松小学校のコミュニティスクールへの参加

赤松小学校は「赤松コミュニティ」を通して地域の人々に学校教育に参加してもらい、教師だけではなく地域全体で児童を育成する取組を行っています。この「コミュニティスクール」に佐賀環境フォーラムの学生が参加し環境教育を行い、児童に「識る(しる)」ことの楽しさを伝えました。

学生が共に学び考える フォーラム

理工学部機能物質化学科
みやじま
教授 宮島

とおる
徹

最近、環境問題、特に地球温暖化についての関心が急速に高まっています。現代の豊かな物質文明は化石燃料の大量消費によって支えられていますが、これが気候変動に大きな影響を与えているのではないかと懸念されています。わが国におけるエネルギー消費の増加が著しいのは、産業界というより、生活や輸送に起因しており、私達の生活様式そのものを見直す必要があります。では、具体的にどのような行動すれば良いのでしょうか？これを市民と学生が共に学び考え討論するのが、「佐賀環境フォーラム」です。

佐賀大学と佐賀市の連携によって運営されている「佐賀環境フォーラム」は、今年で6年目を迎えました。その企画や運営には佐賀大学の教職員や佐賀市環境課職員ばかりでなく、学生や市民も加わり約150人がそれぞれの立場から支えているのが特徴です。活動は1年を通して行われます。

学生に対しては教養教育として実施され単位が認定されます。前期に実施される「身近な環境―知ろう・見よう・考えよう」では、本学



学内外から130名を超える参加者があった「EA21 キックオフ宣言式及び記念講演会」
(平成18年12月25日)

■佐賀大学エコアクション21 認証取得へ

「佐賀大学版環境マネジメント」班は、数年前から、理工学部機能物質化学科をモデルとしてISO14001 認証取得のための支援を行ってきました。この活動は、昨年末に佐賀大学がキックオフ宣言をしたエコアクション21(環境省が策定したISO14001の国内版)認証取得への原動力となっています。今後、ワークショップを継続することによって学生の視点からの自発的な活動が期待されます。

環境 - 見よう・考えよう

まや、大学内から地域社会へと大きく広がってさまざまな環境NPOが活動していますが、互いに情報によってより豊かな成果が得られると期待できます。佐賀大学が、今後、これらの活動の交流の場を提供す。地味ですが、このような活動が佐賀大学で着実だき、ご協力下さる様お願いいたします。



パソコン室でのホルムアルデヒド濃度の測定実験をする学生

■シックスクール調査

佐賀市教育委員会と連携して、佐賀市内の小・中学校45校の室内大気環境についてホルムアルデヒドおよび揮発性有機化合物濃度を調べました。この情報に基づき、問題箇所(パソコン室、音楽室、美術室等密閉性の高い部屋が多い)について改善措置が採られました。

近年の中国の経済発展は目覚しく、上海に代表されるように沿岸部は急速に発展し、2005年の中国の国民一人当たりの国内総生産GDPは20万5千円に達し、2008年には北京オリンピックが開催され、GDPも近く24万円(2,000ドル)を越えると思われております。ちなみに、現在の日本の国民一人当たりGDPは約423万円で、東京オリンピックの年のGDPは約122万円(10,140ドル)でした。

た。しかし、中国には1億人の金持ちと12億人の貧乏人がいると言われるように、全人口の60%を占める約8億人が住む農村部では農牧業以外に所得を得ることが出来ず、自給自足的な生活がほとんどです。農村部の一人当たり年間所得が約4万円であるのに対し、都市住民の所得は約14万円で大きな差となっており、また、病院や学校などの施設も農村部には十分にいきわたっていません。この所得や社会インフラの地域間



山西省の雁門関地区生態環境回復・貧困緩和プロジェクト署名式(前列左が筆者)

自然草地への放牧禁止、山腹からの耕作撤退を推進 —しかし、農村対策はこれから

格差は中国における大きな社会問題となっており、現在中国では約1億4千万人が農村から出稼ぎをしていると言われています。オリンピック景気もあり今北京は建設ラッシュですが、工事現場の労働者の大部分がこのような出稼ぎ者です。皆さんがテレビで目にする中国は上海や大連など沿岸部大都市の様子の一部に過ぎません。

赴任後4ヶ月の短い期間ですが、中国の内陸部の農村はアフリカ以上に厳しいというのが印象です。中国では古くから万里の長城や都市建設のために、また工業のために木を切り倒し、日本の農村で見られるような鎮守の森はありません。また、中国は人口が多いため、農民一人当たりの耕作面積は約14aで日本より狭く、中西内陸部においては年間降水量が400mm以下という非常に厳しい環境の中で生活をしています。アフリカと違い中国は雨が少なく上に気温も低く、冬は氷点下20度以下となり、年間の無氷期間が104日しかないところもあります。そこではわずかな雨水を利用してマメやソバを作り、人も雨水を溜めて飲んでいきます。さらに西の新疆では、どう見ても砂漠とは思えないところにかすかに生えた草を羊が食べて冬を越しています。

一方、中国には戸籍法という厄介な問題があり、農村戸籍の人は一時的な出稼ぎ労働は出来ても自由に都市に住めるわけではありません。また、その多くが若者であり、農業だけではなく農村社会そのものが崩壊寸前です。中国政府は自然草地への放牧禁止や、山腹からの耕作撤退を推進していますが、人口が多すぎるせいもあり、

り、他産業への余剰人口の吸収も含めた農村対策はこれからということになります。

中国の黄砂は写真や図に示すように中国国内のみならず、韓国やロシア、はてはアメリカまで飛散し、その被害は年々増加しています。

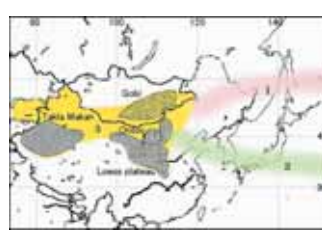


図1. 黄砂の発生地域(黄色部分)と日本へのルート(黄砂解析鹿児島グループ (黄砂解析鹿児島グループ http://arist.edu.kagoshima-u.ac.jp/adust/kosa-j/kosart.htm より引用))

我々佐賀県人にとっては春の風物詩として馴染みのある黄砂はこのような中国の奥地から飛んできます。しかし、黄砂問題は結局は余剰人口を抱えた農村社会問題であり、その根は深く、単に植林などによって防げるものではありません。また、農村部は鳥インフルエンザなどの感染症の発生源ともなっており、隣国でしかも近いところに位置する佐賀にとって、中国の問題は他人事では済まされません。

佐賀は昔から農業県として発展してきています。医療、教育を含めた佐賀のような農村社会発展の歴史・教訓は、今中国が最も関心を寄せる分野です。

そのような環境の佐賀で育ち、佐賀大学でなければ学べなかったであろうことがたくさんあり非常に役立っていると、今になって気づいています。

※1ドル表記を1ドル120円で換算



四川省凉山州の畑
(頂上近くまで開墾された山。手前の松は1980年代に植林されたもの)



山西省の雁門関地区の畑
(山腹に広がる段々畑。年間降水量は約400mm。)



北京の黄砂被害

黄砂はどんなところから飛んでくるか

(独)国際協力機構 中国事務所長 古賀 重成さん

私は昭和50年(1975年)3月に、農学部農学科を卒業しました。当時はまだS1が走っており、それで一年間は武雄の田舎から自宅通学していましたが、さすがに2年目からは下宿しました。卒業実験には大学に施設がないにもかかわらず無謀にも放射線突然変異をやることとなり、週に一度、担当の高木助教が運転する自家用車で九州大学の農場に通うことになりました。高木助教が下宿で私を起し、奥さんが作られた朝ごはんの弁当を道すがら食べるとい

今では考えられないような生活が懐かしく思い

起こされます。あの時のお弁当代はお返ししていませんし、ガソリン代はどつしたのか、聞かずにまいです。

卒業と同時に、当時、特殊法人が何たるものかも、その成り立ちも全くわからないまま、単に海外の仕事をしていて、半官半民というくらいなら安定してそうだという、田舎者丸出しの考えで特殊法人国際協力事業団(JICA)を受験したらパスし、30年経ってしまいました。

皆さんご存知のように、JICAは2003年10月に緒方貞子さんを理事長として(独)国際

協力機構として新たにスタートしておりますが、2008年10月には更に国際協力銀行(JBIC)の円借款業務と統合されることとなり、世界銀行に次いで2番目の大きな援助機関となる予定です。JICAはこれまで肥大化するの所未恐ろしい気がします。しかし、どんな形になるにせよ、日本政府が行う開発援助の実施機関であるという点で、本質的な違いはありません。

さて、中国は一衣帯水の隣国でありながら歴史や靖国問題などから、政治的に良好な関係で

あるとは言えません。その一方で、1980年代以降日中の経済関係は強まっており、現在の日中関係を中国側では、経済的には熱いが政治は冷たいという、「経熱政冷」という言葉で表現しています。

中国に対するわが国の援助は、1972年9月の国交回復以降、改革开放政策をとりはじめた中国を支援するために1979年から開始され、私は昨年8月から1982年に設置されたJICA中国事務所の9代目の所長として赴任しています。



文化教育学部
人間環境課程 3年
いま むら ゆ み
今 村 由 美



練習風景(佐賀県神埼町の日の尺池にて)
カヌーには片足を立てて漕ぐカナディアンと、座って艇の両側をパドル(カヌーをこぐ道具)で漕ぐカヤックという種類があり、女子の種目はカヤックのみとなっている。

カヌーは私の宝物

～カヌーでオリンピックを目指す～



私の相棒の Vanquish (ヴァンキッシュ) という艇



艇を担いで練習に向かっています
(艇の重さは約12キロ)

私がカヌーと出会ったのは、中学三年生の夏休みでした。私が住んでいる町で主催されたカヌー教室に参加したのがきっかけです。そのカヌー教室は地元の高校のカヌー部の方が講師をされていて、私はそこでカヌー部の顧問の先生から、高校三年生の時に日本で開催される世界選手権と一緒に目指さないかと誘われました。

初めは、自分にそんなことが出来るのかという気持ちと、頑張りたい、やってみたいという気持ちで悩んでいましたが、先生の熱心な勧めと、カヌーの魅力に惹かれていった私は、カヌー部のある高校に進学することを決めました。それからは、本当にカヌー中心の生活で、苦しいこと、きついこともたくさんありましたが、目標であった世界選手権に出場することができ、14位という成績を収めることが出来ました。そしてその後開催されたアジア大会では、優勝することも出来ました。

高校卒業の時、将来は教師になることが夢だった私は、佐賀大学に進学することを決断しました。大学にはカヌー部はありませんでしたが、高校時代の恩師の指導の下、第二のカヌー人生が始まりました。大学に入ってから成績は、九州ブロックで二年連続優勝して国体出場を決めましたが、昨年は三位通過での国体出場となり、国体でも、大学生になってからは、まだ入賞が出来ていません。昨年の国体では予選敗退をするなど、本当に悔しさだけが残る試合でした。今年の国体は、大学に進学して四度目の国体なので、このオフシーズンにもう一度自分を見つめ直し、初心に帰り、体力の面でも技術の面でも何倍にも成長して、必ず入賞したいと思っています。そして最終的にはオリンピックに出場して、日本ではまだまだマイナースポーツであるカヌーを広めていきたいと思っています。

私は、カヌーと会うまで、自分に自信が無く、何事も中途半端で、ただ毎日を過ごしていただけでした。でも、カヌーを通して、努力することの大切さや、最後まで諦めずにやり遂げた時の達成感、仲間の大切さ、感謝する気持ちなど、多くの大切なことを学びました。私にも自信を持ってやれることがあるんだと実感できたし、人間としても大きく成長することができたと思います。カヌーが私を変えてくれた。私は、カヌーを通じて知り合った方々、支えてくださった方々、そして大好きなカヌーに感謝しています。カヌーは私の宝物です。

TBS「学校へ行こう！」のエアポで一躍スターに！



経済学部経済システム課程 2年

えだ がわ たい すけ
枝 川 泰 輔

ボーカル：えだ がわ たい すけ
枝 川 泰 輔
(経済学部経済システム課程 2年)

キーボード：なか やま てる たか
中山 輝 宝
(経済学部経済法律課程 2年)

ギター：たか たけ のり
高 田 健 式
(理工学部都市工学科 2年)

ドラム：お が た ま さ ひろ
緒 方 将 大
(理工学部数理科学科 2年)

始まりは一年の春休みのことです。暇な時間も増えてきて、大学生活にも慣れ親しんだ頃のことです。その日の夜はアルバイトで、何となく「学校へ行こう！」を録画してバイトへ行き、帰って来て観てみると、そこには弾けたように歌っている中国人デュオが映っていました。いや、歌っているというより曲に合わせて口を動かしているものでした。それがエアポ一カルとの出会いでした。

「バカみたい。」それが見た時の第一印象でした。しかし、それとは逆に「オレにも出来る。いや、オレのほうが面白く出来る。」という想いが沸き起こってきました。そう、私もバカだった。そして一瞬にして、頭の中はイメージでいっぱいになりました。人というものは興味を持ったものには、驚くほど頭が回るものです。

それから、すぐに同じ野球部員に見せると、すぐに「やろう。」という返事が返ってきました。それがキーボードの中山君です。しかも、そこにはたまたまバンド経験者の野球部員もいて、ギターとドラムになりバンドという形でやる、という発想が浮かびました。すぐに構想を練って、撮影に入り、何回も練習して、ついに完成しました。投稿してから、電話が来たのは1ヶ月後。その時は心臓がバクバク状態のままテレビ出演への許可の返事をしていました。

しかし、いざ出演して放映されてみると、思っていたよりも周りの反応は薄く、正直残念な気持ちでした。けれど、たまたまテレビを見たという見知らぬ人からの手紙に「こんな世の中でも、純粋に笑うことが出来るものがありました。ありがとうございます。」と書かれていて、それを読んだ時、初めてテレビに出て良かったと思いました。正直、自慢出来るようなことはやっていませんが、人とのつながりを再確認することが出来ました。

今思えば、私と同じ大学生みんなにチャンスはあったのだと思います。ただ、そこには「自分には出来ない。恥ずかしい。」などの感情が先走って、なかなか実行に移せない人たちもいるんだと思います。だけど、恥ずかしさの奥にこそ本当の自分というものがあるのではないかと思います。

何となく終わるはずだった私の大学生活でしたが、ただ一本のビデオから、これほど様々な経験をすることが出来て本当に良かったです。私達のテレビ出演に協力してくれたTBS関係者の方々や野球部のメンバーに感謝します。そして、入学していなければテレビに出ることもなかったであろう、この佐賀大学にも。

準硬式野球部で日々練習に汗を流しているエアポのメンバーたち



素顔の時のボーカルの枝川君



学生の干潟体験学習の様子



湿地学習コーディネーターの中村安弘氏によるむつごろう館での講義

佐賀大学地域創成学生参画型教育モデル事業：「森・川・干潟を結ぶ環境教育のネットワーク構築による地域再生プログラム」の一環で、ガタリンピックが開催されている鹿島市の七浦海浜公園内に、干潟や湿地の環境について学習する施設（サテライト教室）を開設しました（平成18年10月）。

この施設は、干潟体験や干潟環境教室を開催している七浦地区振興会干潟体験事業部と佐賀大学の協働によって、干潟体験・干潟環境学習を含む「干潟エコツーリズム」の企画とその実践の拠点として活用するものです。

国内外で干潟や湿地保全に取り組んでいる地域では、アカデミズムと市民による実践活動を繋ぐ機能として、このような学習施設が重要な役割を果たしています。「むつごろう館」では、すでに県内の小中学校の干潟体験・干潟環境学習プログラムの開発と実践活動を、農学部の教員・学生が参画する形式で進めています。今後は、シギ・チドリネットワーク登録地の鹿島市新龍海岸も含めた干潟環境教育の拠点形成を目指して、関係者の協力を得ながら推進していきます。

サテライトには、プレゼンテーション機器一式と30名程度収容の机・椅子が完備されています。今後は、干潟の生態や体験学習等をオンラインで発信するための「干潟オンラインシステム」の整備も進めていきます。干潟体験や渡り鳥観察などの干潟・湿地環境学習の拠点として、あるいは鹿島市近辺での調査研究会の会議等で活用していきたいと考えています。

鹿島市に干潟環境教育サテライト教室「むつごろう館」がオープン！

農学部助教授

いがらし つとむ
五十嵐 勉

地域創成教育プログラム：
森・川・海を結ぶ環境教育
ネットワーク代表

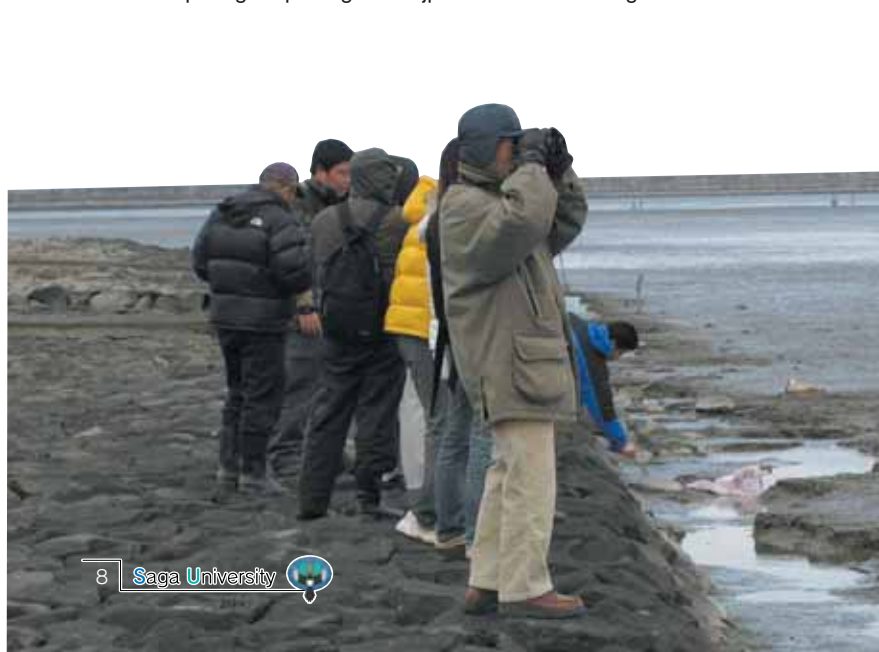
むつごろう館の関連情報等は以下のとおりです。

佐賀大学地域創成学生参画型教育モデル事業：環境教育のブログ

<http://saganecoedu06.blog64.fc2.com/>

むつごろう館開所式動画（eラーニングスタジオ作製）

<http://digarc.pd.saga-u.ac.jp/media/etc/2006/higata/20061016.asx>



鹿島市新龍海岸（シギ・チドリネットワーク登録地）での市民対象の公開講座の様子

疾病予防の研究のために 市民1万人が20年間協力

医学部社会医学講座予防医学分野
教授

田中 恵太郎



市民に調査の説明と協力を依頼する田中教授



20年間の調査のスタート—
血圧測定や血液検査をする市民の方々

疫学研究により生活習慣病の 予防を目指す

予防医学研究室では、主に人の集団を対象とした疫学研究により、癌などの生活習慣病の危険因子と防御因子を明らかにし、その予防に役立てる事を目標にしています。

たとえば、喫煙と肺癌の関連は、20世紀半ばから行われてきた疫学研究によって証明され、わ

が国の男性肺癌の約7割は喫煙を止める事で予防できると推測されています。医学では患者を治療することが中心ですが、

必ずしも治療がうまくいかない場合もあり、病気にかからないにこしたことはありません。また、今後わが国は超高齢化社会を迎え、医療費の高騰が懸念されます。病気の予防は治療よりも低コストであり、今後予防医学は益々重要になるものと考えられます。



保存する血液サンプルは2次元バーコード入りのマイクロチューブでコンピュータ管理

疾病予防のための確かなエビ デンス(証拠)が必要

病気の予防のためには、確かなエビデンス(証拠)が必要です。巷には、健康食品や健康に関する情報が溢れていますが、その有効性を科学的に検証されたものは僅かです。また、生活習慣と病気の関連はかなり明らかにされましたが、最近の研究で個人の体質(遺伝的素因)も病気の発生に関連することがわかってきました。たとえば、同じ量のタバコを吸っても肺癌にかかりやすい人とかかりにくい人がいるという事が報告されています。

今後は、個人の体質も考慮した予防法を検討する必要があります。この個人の体質は、血液などからDNAを抽出し、遺伝子型を調べることで決定します。外国人と日本人の遺伝子型は異なりますので、この検討のためには日本人独自のデータが必要です。

現在、この研究室は日本多施設共同コホート研究(通称:ジェイミックススタディ)に参加し、40~69歳の佐賀市民の方々の疫学調査を実施しております。ジェイミックススタディは、日本全国で約10万人の人々を20年間にわたって追跡し、癌などの生活習慣病と寿命に関係する生活習慣と遺伝的素因を明らかにする事を主な目的にしています。

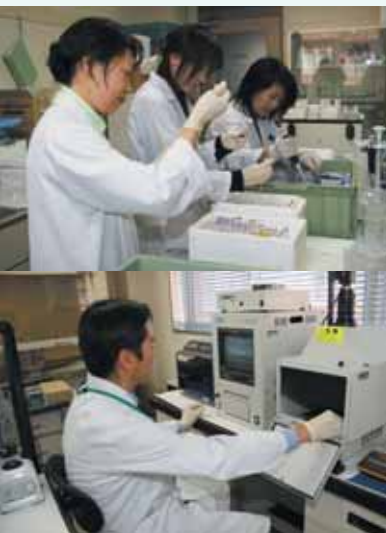
全国で10万人、佐賀市で1万人 を追跡調査

佐賀市では1万人の方々のご参加を目標としており、平成18年末までに約6千人の方々のご参加を頂きました。参加者には、生活習慣に関する質問票調査、身体計測、血圧測定、電子歩数計による身体活動量の測定、血液検査と遺伝子解析のための採血をお願いしております。将来的にわが国の疾病予防に役立つ多くのエビデンスが得られることを期待しております。

個人の情報も考慮した予防法を決定する

サンプル検査型
血液生化学検査
用検査キット

個人の情報も考慮した予防法を決定する
ひがし 靖樹
助教授





みんなでホノルルマラソンに チャレンジしよう！

“夢”を叶える「佐賀大学・アミノバリュールンニングクラブ」

“ホノルルマラソンにチャレンジしよう”という事業は、平成17年7月、佐賀大学地域貢献推進事業として、ランニング学会と大塚製薬の支援を受けて始まりました。フルマラソンに挑戦してみたい、ホノルルマラソンを一度走ってみたい、マラソンなんて無理だけど健康のために運動したい、そんな方たちが集まり、現在ス

医学部社会医学講座予防医学分野
助教授

ひ がき やす き
松 垣 靖 樹

スタッフを含めて69名の大所帯となっています。

現在までの軌跡をたどると、平成17年12月12日のホノルルマラソンは21名が参加し全員完走、そのうち15名はフルマラソン初参加で感動のゴールテープを切りました。最年少の8歳で参加した相良郷君は、お父さんお母さんとウォーキングでフルマラソンを完歩し、帰国後は某テレビ局から出演交渉もありました。そして平成18年のホノルルマラソンでは、応援も含めて39名

がホノルル入りし、昨年に続き参加者全員が見事にゴールしました。今大会のMVPは堀口美子さん(57歳)、昨年、夫である茂さんがこの事業に申し込まれたのをきっかけに始めた健康ウォーキングが今や市民ランナーの域に入り、今年は5時間22分38秒で見事に完走、昨年の記録6時間50分24秒を大幅に更新し、茂さんに迫る勢いです。「今まで運動なんてしたことがなかったけど、今は楽しくて・・・」という堀口さんは、「好きこそものの上手なれ」のモデルといってよいでしょう。

“ホノルルマラソンにチャレンジしよう”事業は、地域の皆さんと“楽しみ”を共有し、“目標”を持って取り組み、そして“夢”を叶えるクラブとして「佐賀大学・アミノバリュールンニングクラブ」という組織となり、マラソンを通して健康づくりを総合的にサポートするユニークなクラブへと一歩一歩と進みつつあります。

本事業担当の向井常博理事は、「大学はスタッフとして必要な多様な人材を擁しており、そのことは大学がクラブをもつことのメリットであり、今後とも地域と連携する大学としてこの事業を続けて行きたい」と発言しています。

いつでも、誰でも参加できます。みなさんもクラブメンバーになりませんか？

佐賀大学・アミノバリュールンニング
クラブ世話人
医学部社会医学講座予防医学分野
助教授 松垣靖樹

連絡先: 0952-34-2282
higaki@cc.saga-u.ac.jp
http://open.sesames.jp/jeep_run_crew/html/_TOP/



最年少でゴールした相良郷君(写真中央)、
前列右端は松垣助教授。
(平成17年12月撮影)



平成18年12月10日午前4時、
ホノルルマラソンスタート前の
集合写真。前列右端は、佐賀大学
ジョギングクラブの会長である
向井常博理事。

夢のシステム開発 見つめるだけでコンピュータ入力ができる！

理工学部知能情報システム学科
教授

あら
新井
康平

眼球運動でキーを特定

近年、眼球運動を計測し、視線方向から目的とするキーを特定する視線入力インターフェースが注目されています。眼球運動は身体他の部位に比較し運動機能の低下が遅いため、ALS等の肢体不自由者にも有効です。また、眼球運動による視線入力により他者やコンピュータとのインターフェースが可能になり、意思伝達、社会参加が可能になります。

障害者や高齢者の方々の役に立つシステム開発

厚生労働省の統計によれば、日本の2003年の18歳以上の障害者で295万人は、視覚で意思伝達や社会参加が可能な方々だそうです。要介護者を含めるとさらに多くの方々がこの恩恵を受けることができます。私はNPO法人シニアネット佐賀の理事を勤めています。高齢者はキーボード入力が苦手との理由でコンピュータから遠ざかる

傾向があり、視線入力により、この抵抗もなくなると期待しています。

安価でしかも簡単

これまでもキーボードを利用しないコンピュータ入力インターフェースが開発されています。磁気コイルを挿入したコンタクトレンズを装着する、眼球周辺に電極を貼る等の接触型がありますが、利用者は心理的に負担が強いられます。角膜反射、強膜反射型は非接触であっても赤外波長域の電磁波を利用するので精度は高くなりますが価格も高くなります。比較的安価で非接触型に眼球周辺画像解析による入力がありますが、せいぜい10数種類の予め決められたメニューの何れかを選択する程度でした。これでは自由意志を伝えるとは言い難く、また、疾患によつては体が無意識に動いてしまう場合があります。

これらのすべてに対応するため、自

由意志を伝えられ、安価で、心理的負担が少なく、利用者の体の動きを許容する入力インターフェースが必要とされてきました。ここでは写真に示すようにWebカメラ(640×480画素)程度の安価なハードウェアにより利用者の顔画像を撮影し、19インチディスプレイに表示したキーボードのキーを約2割の再入力を許容すれば選択できるようにしています。今後、企業とともに使用の容易性を追及し実用化研究に繋がっていきたくと考えています。

眼球運動をキャッチするWebカメラ



夢のシステムを開発した新井教授



佐賀大学ブランドの特別純米酒



佐賀大学では地域貢献事業の一環として、地場の清酒製造メーカーと連携し、佐賀大学オリジナルブランドの清酒（特別純米酒）を製造し委託販売することになりました。

開発に取り組んだのは、農学部に加藤富民雄教授（応用微生物学）のグループで、農学部附属資源フィールド科学教育研究センターで収穫した米「ヒノヒカリ」と、農学部で研究した清酒酵母「協会7号系」を使用するなど原料は純「佐賀大学産」となっています。

清酒名は学内公募により、医学部の^{たかの ころう}高野吾朗助教授の「悠々知酔」に決定しました。この名前は「悠々と酒を飲みながら、知の探求に酔う姿」をイメージして名付けられました。

清酒ラベルについては県内公募を行い、「桃源郷のような雲の上でゆっくりのんびり飲む姿」を思い描いた田中ひとみさん（伊万里市在住）のデザインが採用されました。

なお、田中さんと佳作の方2名には、賞金のほか「悠々知酔」と徳利・お猪口（文化教育学部美術・工芸講座 田中右紀講師が制作）が贈呈されました。

「悠々知酔」は3月上旬に佐賀大学生協において販売予定です。価格は720ml入り1500円、限定1700本となっております。

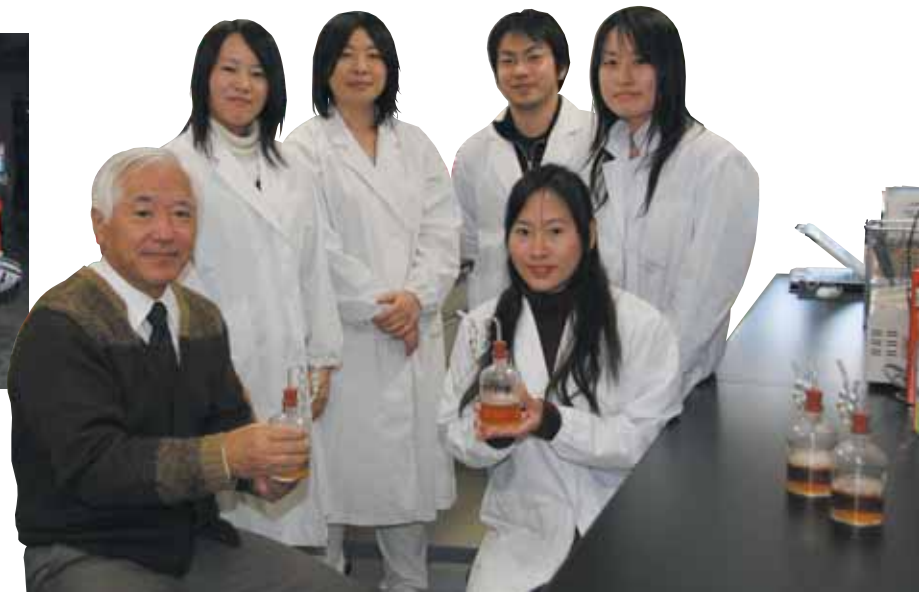
ぜひ、一度ご笑味ください。



酒母の仕込み作業の様子
（佐賀郡久保田町の窓乃梅酒造にて 平成19年1月23日）



開発に取り組んだ加藤教授(左)の研究室グループ





監督の西村雄一郎氏(中央)

カメラをセットする「ふるさと映像塾」のメンバー

呼子の海を見ながらムツミに説明する玄太

ふるさと映像塾制作「天女の舞い降りた海」

全国豊かな海づくり大会で上演

教育学研究科2年

やま さき こう せい
山 崎 耕 成



小城市芦刈町の住ノ江港の祭り、父の跡を継ぐことをムツミ(野瀬)に告げる玄太(山崎)

平成 18 年 10 月 29 日に佐賀県で開催された「第 26 回全国豊かな海づくり大会」の開会式で上演する映画を、我々「ふるさと映像塾」が制作することになり、わたしがその主役を演じることになりました。

脚本は、経済学部4年生の影山雅代さんの原案に本学非常勤講師であり映画評論家の西村雄一郎先生が手を加えたもので、有明海と玄海という佐賀の2つの海をファンタジー仕立てのドラマで紹介するというものでした。

内容は、山崎演じる玄海の漁師の息子、玄太が、漁師を継ごうかどうか悩んでいる時に、海から来た医学部2年の野瀬智未さん演じるムツミと唐津の海岸で出会うところから始まります。玄太は玄海の祭りや海土漁、イカ漁などをムツミに紹介し、ムツミは有明海の祭りやむつかけ漁、海苔漁などを玄太に紹介する。そんな中、玄太は漁師の一生懸命働く姿に感動し、除々に父の跡を継ごうと決心を固めていく。そしてムツミに小城市芦刈町の住ノ江港の祭りでそのことを告げる。すると、突然ムツミが消えてしまう。ムツミは有明海の沖ノ島に祭られた娘「お島」の化身だった。ムツミのおかげで、漁師を継ぐことを決心できた玄太は親父と一緒に漁に行き懸命に働く、というものです。

撮影で一番大変だったのが、8月9日と10日に撮影した玄海町での一本釣りイカ漁のシーンでした。イカ漁は、夜、船に灯りをつけて行う漁で、満月の夜はイカがほとんどかからないということでしたが、あいにく、この日は満月で、半ばあきらめかけていましたが、運良く10杯も釣ることができ、無事このシーンを撮ることができ皆ほっとしました。

撮影が終了すると次は編集作業です。編集は経済学部3年の横井晴貴君が担当し、監督の指示の元に進めていきました。編集の際、音楽なども映像に組み合わせていきますが、その音楽もオリジナルのものを使いました。教育学研究科2年の弓削田健介君が担当し、映像に合った音楽を作曲しました。

完成した作品を見た時はとても感動しました。自分の演技を見るのは少し恥ずかしかったけれども、そんなことより、みんなの努力が重なって、一つの作品を無事作り上げることができたことに感激しました。

この作品にふるさと映像塾のみんなと関わることができて、本当に良かったと思います。この経験は、私の一生の宝物です。



撮影を終えてくつろぐスタッフ

ふるさと映像塾

学生及び教職員も一緒に活動している、映像の撮影・編集を行うサークル。サッカーチームサガン鳥栖の専属カメラマンとして公式HPに動画を提供。また、県や大学からの依頼を受け映像を制作。



『ティファニーで朝食を』を原書で読む会



ディスカッション風景



附属図書館では、平成17年度より読書奨励企画のひとつとして、英語の本を読む会を開催しています。この会では、教育学研究科教科教育専攻英語教育専修の大学院生数名を助言者として、学生・市民の方々に英語で書かれた本に親しむ機会を提供しています。

昨年度は、学生のみでの参加による「『Good Luck』を読む会」でしたが、今年度は、市民の方々と交えて「『ティファニーで朝食を』を原書で読む会」を、平成18年11月から19年2月の間の土曜日の午後開催し、毎回、オードリー・ヘップバーン主演の同名の映画を鑑賞しつつ、テキストや訳本を読み、大学院生の丁寧な説明を聞きながら、英語の小説を楽しみました。

『ティファニーで朝食を』の主人公ホリーの生き方についてディスカッションをしたり、日本語と違う表現に気付いたり、原書と映画のストーリーの違いに驚

いたり、中学・高校の英語の勉強とは一味違った勉強会でしたが、参加した市民からは「思ったより難しかったが、映画を観ながら勉強できたのでだんだんめり込んでいった」との声が聞かれ、助言者の大学院生も「自分たちにも訳するのがちょっと難しかったが、市民の方々と一緒に勉強できて楽しかった」と話していました。



(左から)
助言者の鍵山和紗さん
松尾香里さん
山本初美さん
(全員教育学研究科2年)



編集後記

今年度の国立大学の志願倍率が発表され、全国平均は過去最低の4.5倍でした。大学全入時代に突入しつつあるということが、徐々に実感されるようになってきました。佐賀大の場合は、「ほぼ前年度並み」を保持でき、全国的に全入の波が高まっている状況下では、今年は善戦したと見て良いのかもしれませんが、ただ、この波は年々大きくなっていますので、今後の対応策に大学の生き残りがかかっていることに、変わりはありません。

そのため対応策として、大学の売り込みが大事なとは言ってもありませんが、大学の一番の売りは、やはり教育力です。どのようなユニークな授業が展開されているか、学生の知的好奇心を刺激し、育てるためのしっかりとした教育システムが整っているか、です。その点で、本号で特集をした「佐賀環境フォーラム」は、学生、市民、行政までをも取り込んだ、大学が育てたユニークな体験型・問題提起型授業です。文部科学省のユニークな教育の取組として採択も受けており、佐賀大の教育力の大きな売りの一つとなっています。

佐賀大には、このような社会のニーズをとらえた画期的な授業が数多く展開されています。そのような授業や取組を、どんどん紹介したいと思っています。

(広報室長 早瀬 博範)





理工学部数理科学科 4年
まつもと ゆき 紀
松本夕紀

私が今、合格して思うことは自分がこのよきな仕事をしたいかをまずは明確にし、目標をしっかり持って対策に取り組むことが重要であると思いました。そしてその目標を何度も何度も確認しながら努力することが大切だったと思います。

長崎県女性警察官(1類)採用試験

も多いので、まずは計画的に学習を進めていくことが大切です。私の場合、計画的にすることが苦手なタイプでしたが、自分のペースで焦らず少しずつ進めていきました。振り返ってみると早めに対策に取り組むことで、自分のペースを維持しながら勉強することが出来たのだと思います。試験の始まる1年前から試験対策を始めましたが、長いようでとても短い一年でした。公務員試験は本人の努力があれば学部や学科など関係なく合格できる試験だと思えます。あとは年間をいかに効率よく勉強できるかが勝負になると思います。実際、法律や経済などの専門的知識が全くなかった私も最終合格することが出来ました。

努力は報われます。公務員を目指しているみなさん、是非頑張ってください。



文化教育学部学校教育課程 4年
かわかみ ふみ 香
川添文香

教員採用試験に合格できた時は、心の底から「あきらめなくてよかった」と思いました。自信がなくなり、不安で挫折しそうになったこともありましたが、「教師になることは小学校時代からの私の夢。あきらめたり絶対に後悔する」と信じて、合格に向けて自分ができる

佐賀県小学校教員採用試験

限りの準備をしました。まずは、試験傾向を本で調べ、勉強方法を先輩に聞くなど、できるだけたくさん情報を集めました。私は教育実習でしか現場を経験したことがないので、面接試験対策として、現場の先生に会い、現場でのさまざまな話を聞かせてもらいました。佐賀大学の先生方にも、模擬授業の練習などで懇切丁寧な御指導をいただき、大変お世話になりました。4年間続けたボランティアで知り合った方々からの応援もとても励みになりました。振り返ってみると、決して自分一人で行った合格ではなかったと感じています。力を貸して下さった方々のためにも、これから教職の道へ進み、子どもたちのために全力を尽くしていこうと思っています。

公務員試験合格



農学研究科生物生産学専攻 2年
いとう しゅう 樹
伊東秀樹

私は、入学した時から就職は地方公務員だと決めていました。しかし、大学院に進学しようと考えていたので、試験勉強を始めたのは、大学院に入ってからですが、試験勉強の要領がわからず、モチベーションが上がらない日々が続きました。そこで予備校に通って合格した友人から、問題集、出題傾向、効率的な勉強方法等の相談にの

唐津市職員採用試験(土木)上級

ってもらい、自分のやり方は間違いない、必ず結果が出るよとモチベーションを維持できたことが大きかったと思います。また、趣味のテニス、ストレッチを溜めずに勉強を続けられたことにも役立ったと思います。4月から試験を受け、やっとある地方の一次試験に合格しました。しかし、二次の集団面接では面接内容を間違え、準備ができていなかったのに受かったため、三次の個人面接では自分を出せば合格すると安心してしまい、その結果見事に不合格でした。そこで、その後受験した唐津市の二次試験では、前回の失敗を反省してインターネットだけでなく、自分で街を歩き、自分なりにいろいろな面接の情報を集められたので、自信を持って試験に取り組むことができました。やはり公務員勉強には、情報・モチベーションに加え、面接の準備も大切なことだと痛感しました。



農学部応用生物科学科 4年
おざき けい 子
織田啓子

私は、佐賀県の行政職に合格することができました。今振り返ってみると、大学の自由な環境で、様々なことに挑戦することができたからではないかと感じています。管弦楽団のサークルに入り、友人と積極的な活動を行い、数々の困難を乗り越

佐賀県職員採用試験行政職(大学卒業程度)

え、演奏会を成功することができた経験は大きな自信となりました。また大学内だけではなく、社会との接点を持つように心掛けました。特に老人ホームへの訪問演奏、主題の講義で市民の方々とワークショップを行った経験は地域社会における公共性について考える上で大きな学びとなり、公務員という職業を選ぶきっかけにもなりました。公務員試験の勉強は法律や経済、政治学など多数の教科の勉強をしなければなりませんでしたが、「なりたいたい」という気持ちを持って頑張ることが一番のエネルギーとなりました。充実した大学生活を送ることが納得のいく就職活動につながるのではないかと思います。

作品名 **「Unstable - ぐらつき -」**

「体にいい焼物」展(2006年12月5日～25日 於佐賀市歴史民俗館)での展示風景

もりやま かんじろう

森山寛二郎 (文化教育学部美術・工芸課程4年・窯芸専攻)



【作者プロフィール】

- 2003年 佐賀県立有田工業高校セラミック科卒
第53回佐賀県美術展
多久市長賞
- 2004年 第25回筑後市美術展
筑後市長賞
- 2006年 グループ展「体にいい焼物」
に出品
現在、文化教育学部美術・
工芸課程在籍

【作者コメント】

- ・円形を斜めに切り、それを回転させることによる、面と面の繋がり
の表現
- ・底を丸くすることによる不安定さ
が生み出す緊張感
- ・傾きが違うことによる見え方の変化
これらを伝えたくて今回の作品を制
作しました。

